

追悼 宮本正光先生を偲んで



故 宮本 正光 先生

宮本正光先生が2025年6月10日に逝去されました。宮本先生は昭和28(1953)年に東京大学を卒業後、同大学の皮膚科学教室に入局され、その後ハーバード大学のFitzpatrick教授の下、メラニン色素に関する研究で数々の業績を残されました。私が東大皮膚科に入局したときには皮膚科講師であり、皮膚科学の基礎を教えていただき、ときには当時流行っていた麻雀に興じたことも懐かしい思い出の1つです。そして、助教授の折、突如大学の職を辞し開業され、たいへん驚きました。

開業されてからは多くの患者さんと接することにより、さまざまな疾患を経験され、その一端を医会などで講演され、また、症例集としてまとめられるなど、臨床医としてご活躍されておりました。

宮本先生は『皮膚病診療』誌では創刊から12年間にわたって編集委員を務められ、開業医の立場から医療行政、医学教育、保険問題、地域医療、診療・治療のノウハウなど幅広く皮膚科診療に関する話題を取り上げ、「office dermatology」の欄では全国の皮膚科開業医を訪問して、その診療実態などを報告され、多くの示唆を与えてくれました。私が編集委員になる数年前、西山茂夫先生から『皮膚病診療』の編集会議の様子を覗いてみないかと誘われたことがありました。当時新橋駅前にあった協和企画の会議室にお邪魔したところ、宮本先生ほか、安田利顕先生、船橋俊行先生、西山茂夫先生の錚々たるメンバーで構成されている会議で、たいへん緊張しつつ拝聴したことが思い出されます。

宮本先生は本誌が軌道にのったころに編集委員を退任され、やがて医院も後輩に譲って悠々自適の生活をされていたようです。ある秋の晴れやかな日に先生とお会いした際に、「これから軽井沢へ行く」と嬉しそうに話をされ、その変わらない若々しさとダンディなお姿が目に残っております。10年も前のことになりますが、それが先生との最後の会話になってしまいました。

『皮膚病診療』誌の基礎を築き上げ、その発展にご尽力された宮本先生には心より有難うございましたとお礼申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

齊藤 隆三

PCL 東京 病理・細胞診センター
(皮膚病診療 名誉編集委員)